

## 磐梯山の火山活動解説資料（令和8年6月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山性地震は2022年10月以前に比べて引き続きやや多い状態で経過していますが、その他の火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1～6、図7-①）

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは、一時的に100mとなりましたが、気象の影響によるものと考えられます。その他の期間は概ね50m以下で経過し、噴気活動は低調に経過しました。榎ヶ峰監視カメラによる観測では、沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

16日及び17日に実施した現地調査では、前回（2025年5月）と比較して、山体北側火口壁噴気地帯の地熱域及び噴気の状況に特段の変化や異常は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図7-②～⑤、図8、図9）

22日に山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に増加しましたが、その他の期間では少ない状態で経過しました。なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しており、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

#### ・地殻変動の状況（図7-⑥、図10、図12）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

### ○ 活動評価

2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しています。

一方、その他の火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和8年7月分）は令和8年8月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況（6月6日）

- ・ 剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の画像です。
- ・ Y-Oは山体北側火口壁の噴気の場所を示す記号です。また、黄色枠は噴気を示します。

噴気の高さは一時的に 100m となりましたが、概ね 50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

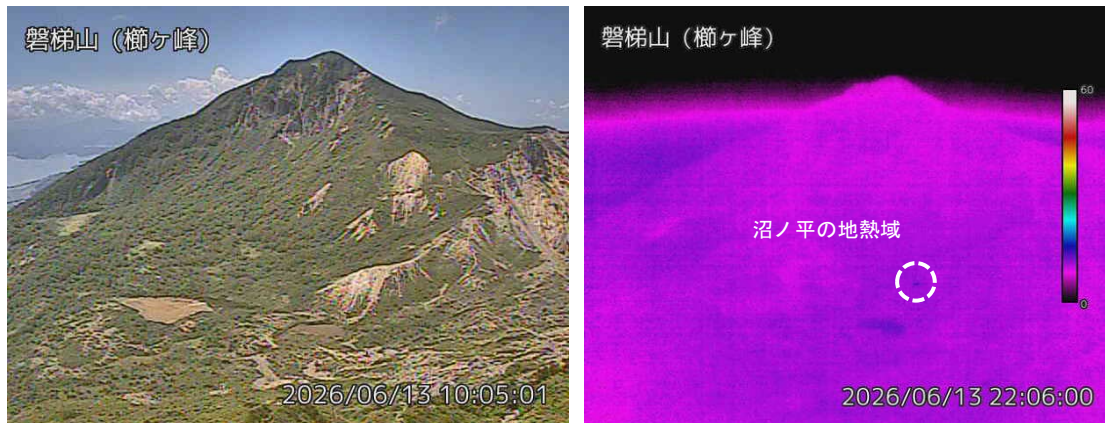


図2 磐梯山 沼ノ平周辺の状況と地表面温度分布（6月13日）

- ・ 櫛ヶ峰監視カメラ（沼ノ平の北東約600m）の可視及び赤外熱画像です。

噴気は認められませんでした。

沼ノ平の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

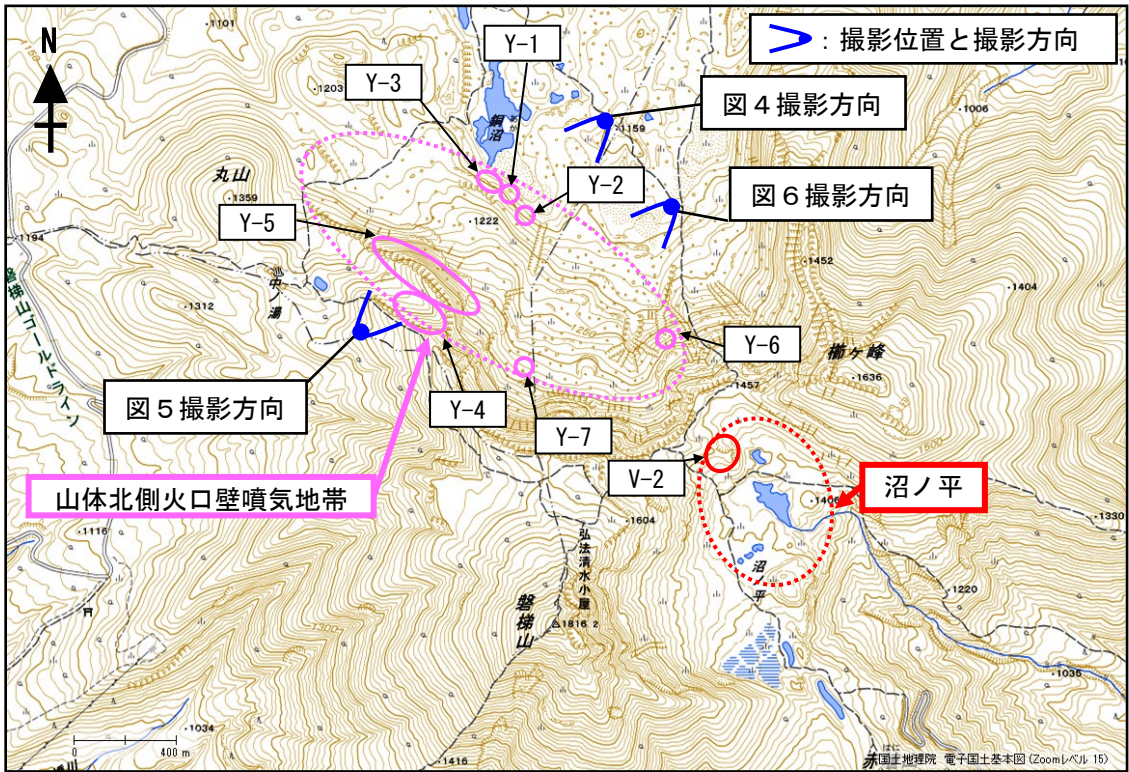


図3 磐梯山 噴気地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方

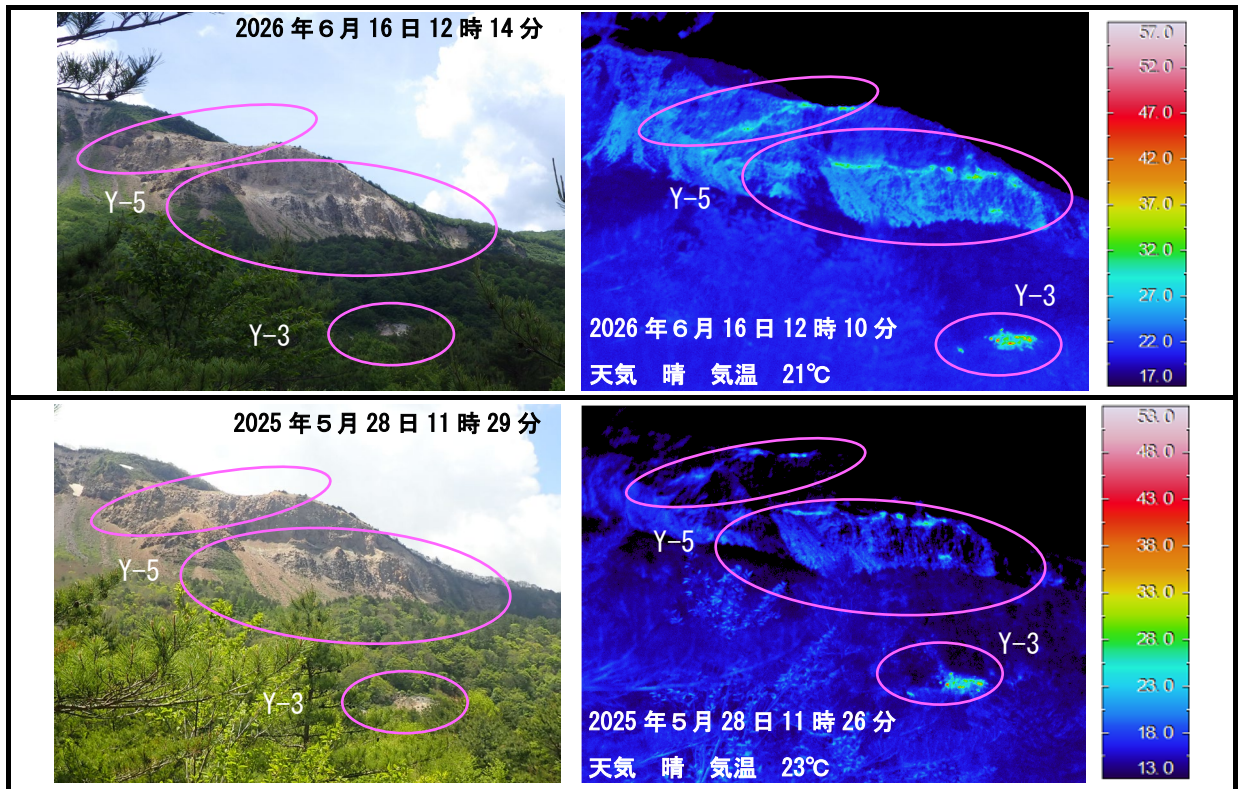


図4 磐梯山 山体北側火口壁噴気地帯（Y-3、Y-5）の状況（左）と地表面温度分布（右）

・撮影位置と地熱域の間の草木の影響で、地熱域の一部が見えなくなっています。  
 ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

山体北側火口壁噴気地帯（Y-3、Y-5）の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした（桃色丸）。

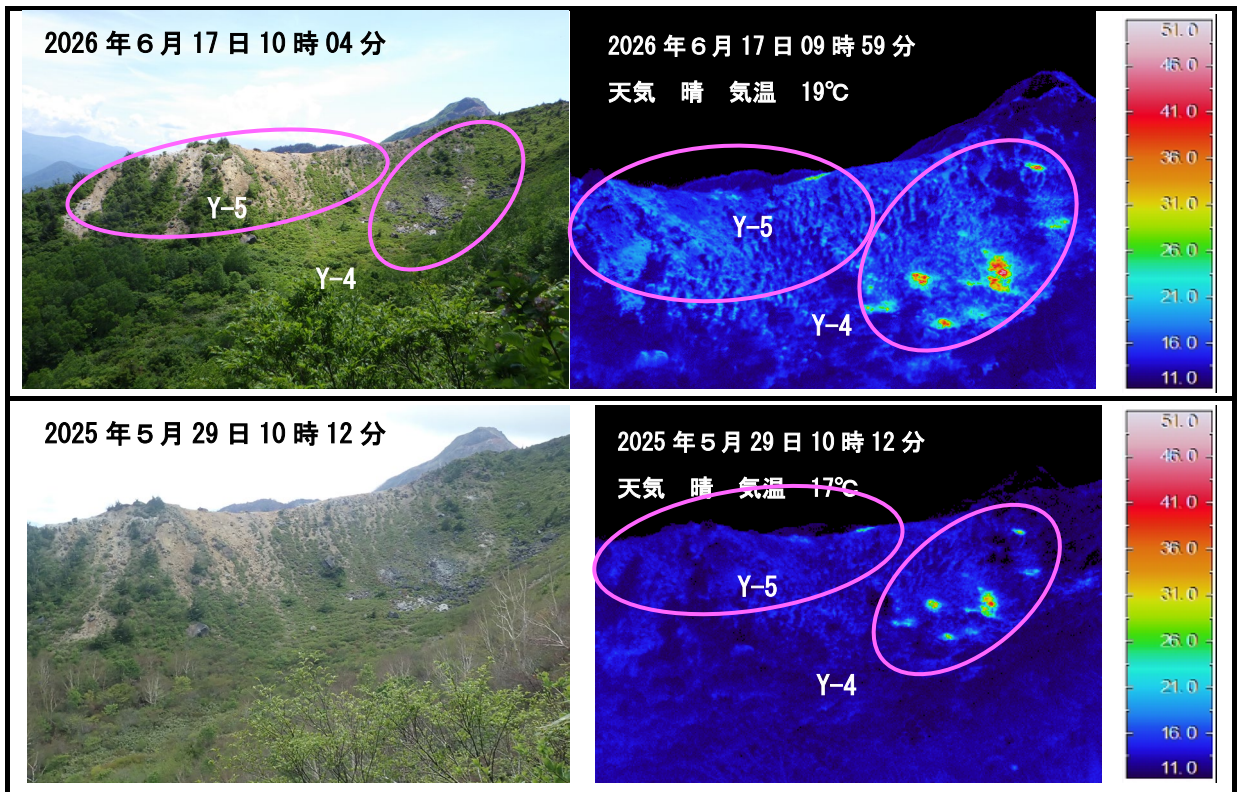


図5 磐梯山 山体北側火口壁噴気地帯（Y-4、Y-5）の状況（左）と地表面温度分布（右）  
 ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

山体北側火口壁噴気地帯（Y-4、Y-5）の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした（桃色丸）。

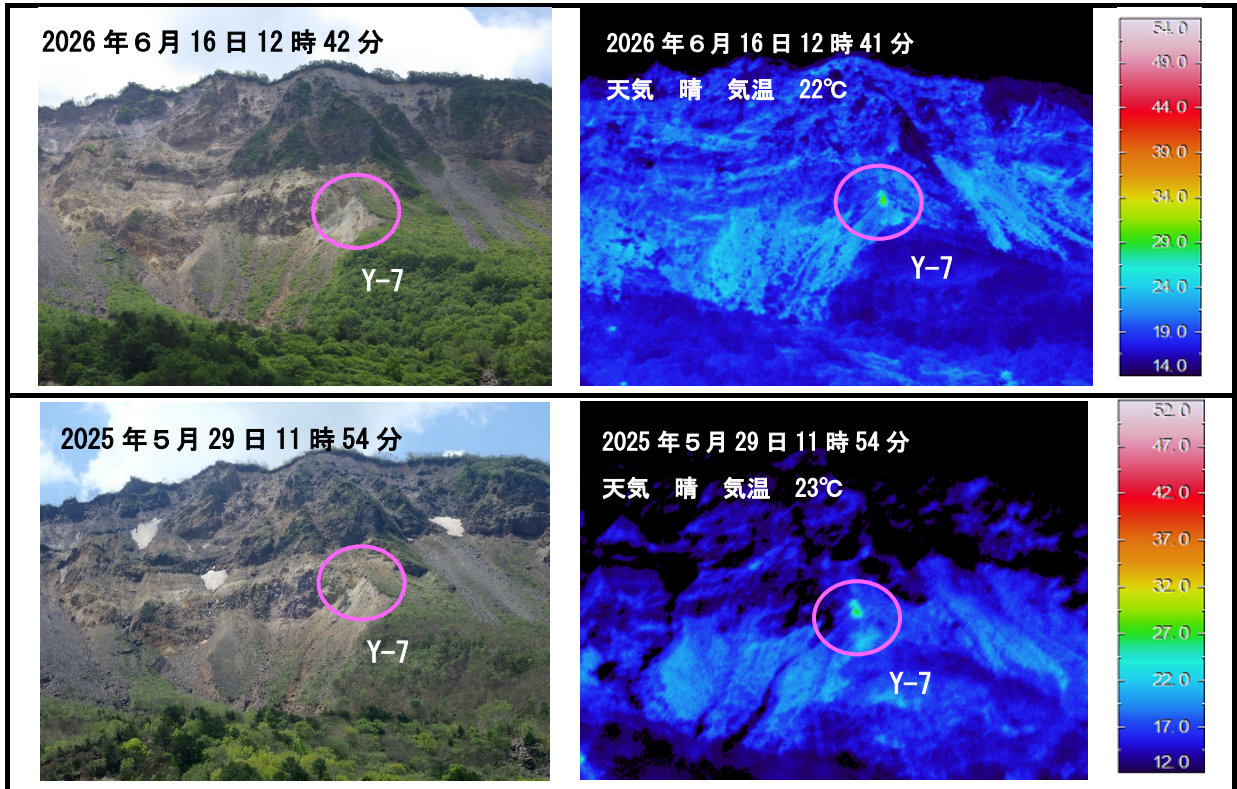


図6 磐梯山 山体北側火口壁噴気地帯（Y-7）の状況（左）と地表面温度分布（右）  
 ※日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

山体北側火口壁噴気地帯（Y-7）の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした（桃色丸）。

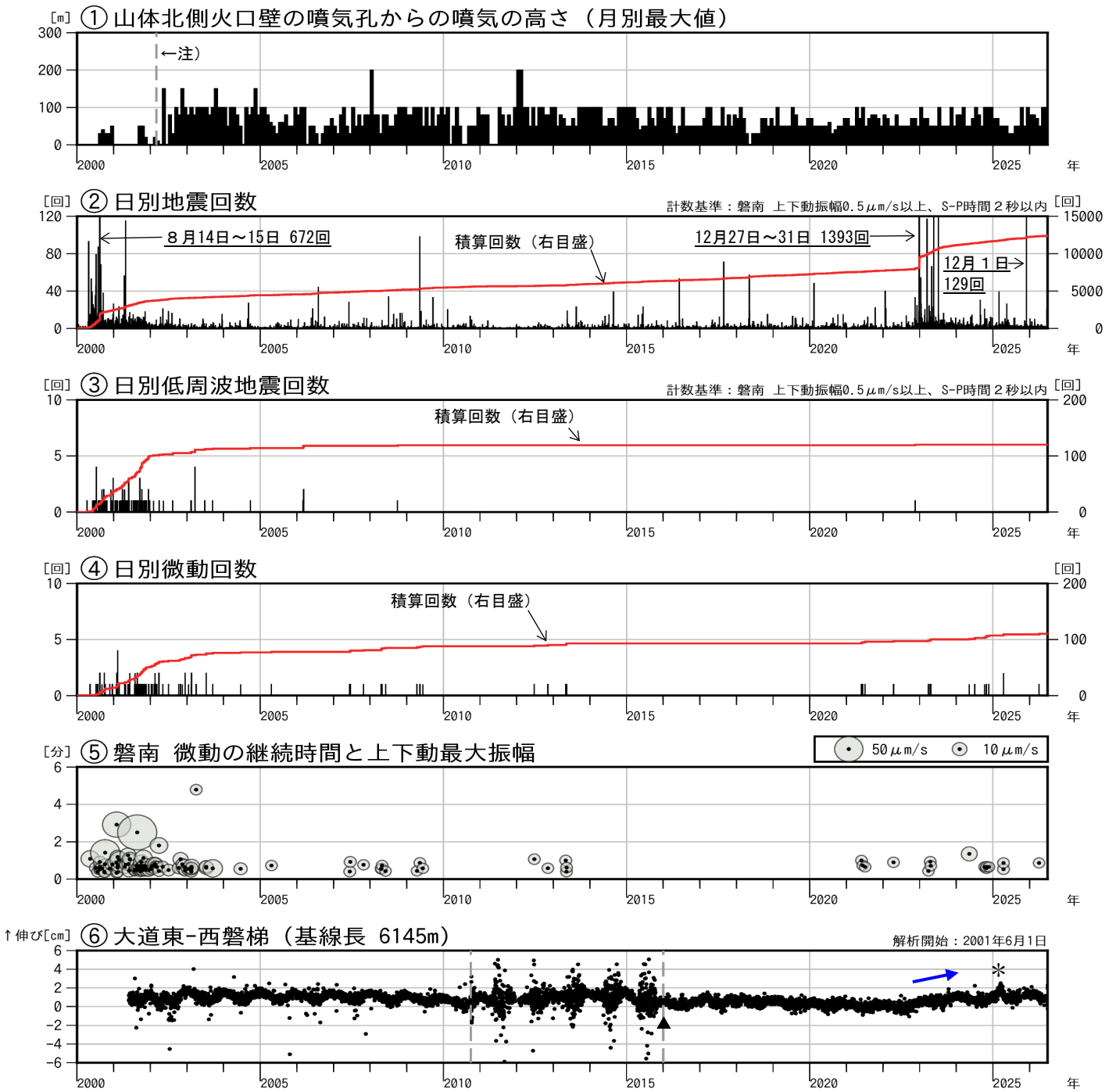


図7 磐梯山 火山活動経過図（2000年1月～2026年6月）

- ・⑥は図12のGNSS基線⑥に対応しています。
- ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています（⑥）。
- 注）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑥）。
- \*：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます（⑥）。

22日に山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に増加しましたが、その他の期間では少ない状態で経過しました。なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しており、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

GNSS連続観測では、2022年後半から2023年10月頃にかけて山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められましたが（青矢印）、その後火山活動によると思われる変化は認められません。

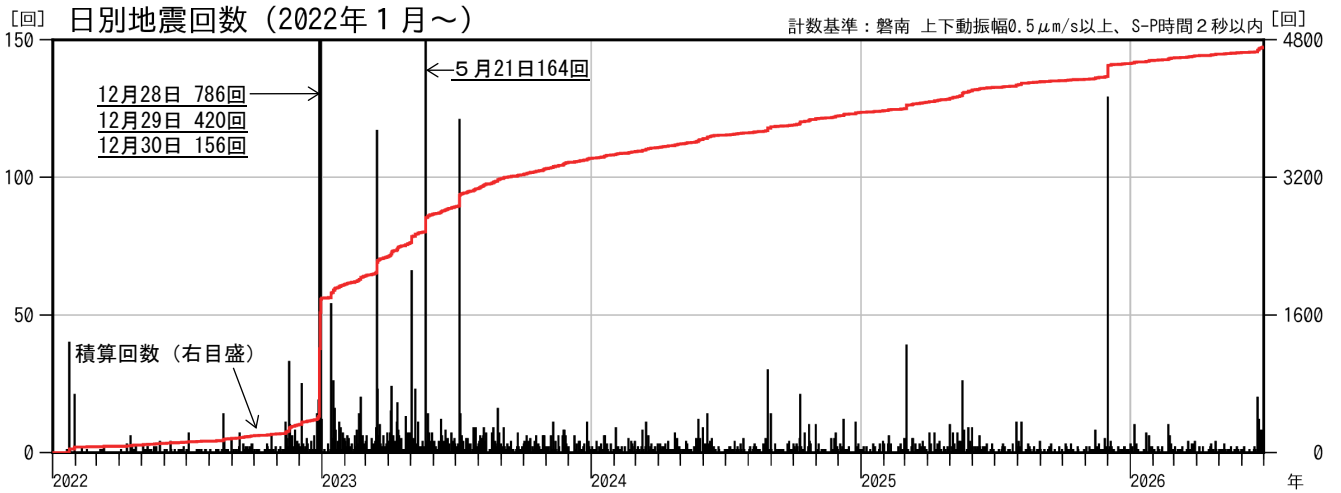


図8 磐梯山 地震回数（2022年1月～2026年6月）

22日に山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に増加し、20回観測されましたが、その他の期間では少ない状態で経過しました。なお、2022年11月以降、火山性地震はやや多い状態で経過しており、2022年10月以前の状態まで戻っていません。

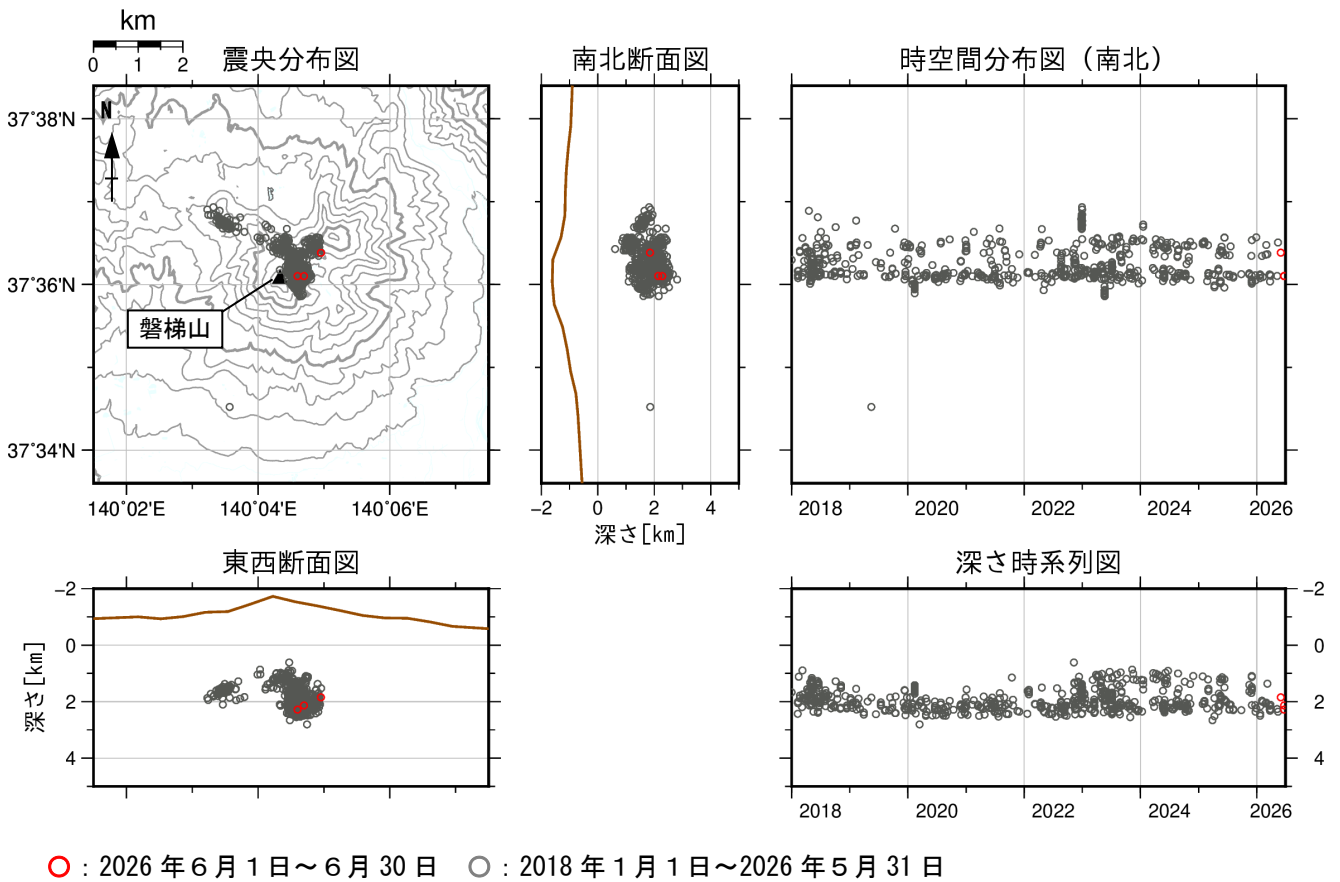


図9 磐梯山 震源分布図（2018年1月～2026年6月）

今期間、震源が求まった火山性地震は、山頂付近の深さ約1～3km付近の領域で発生しました。

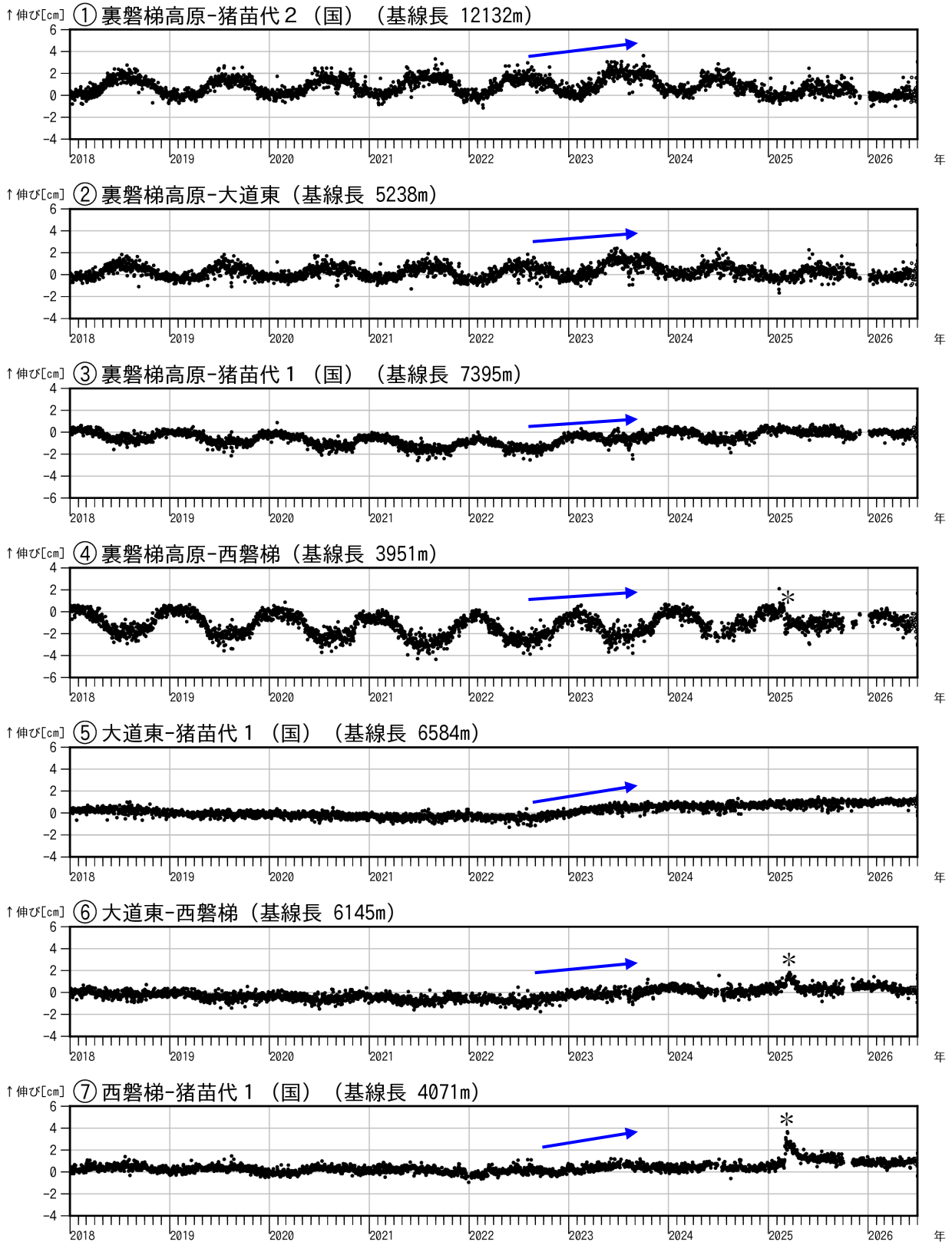


図10 磐梯山 GNSS 基線長変化図 (2018年1月～2026年6月)

- ・①～⑦は図12のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・空白部分は欠測を表しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- \*：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS 連続観測では、2022年後半から2023年10月頃にかけて山体膨張を示す基線長のわずかな変化が認められましたが（青矢印）、その後火山活動によると考えられる変化は認められません。

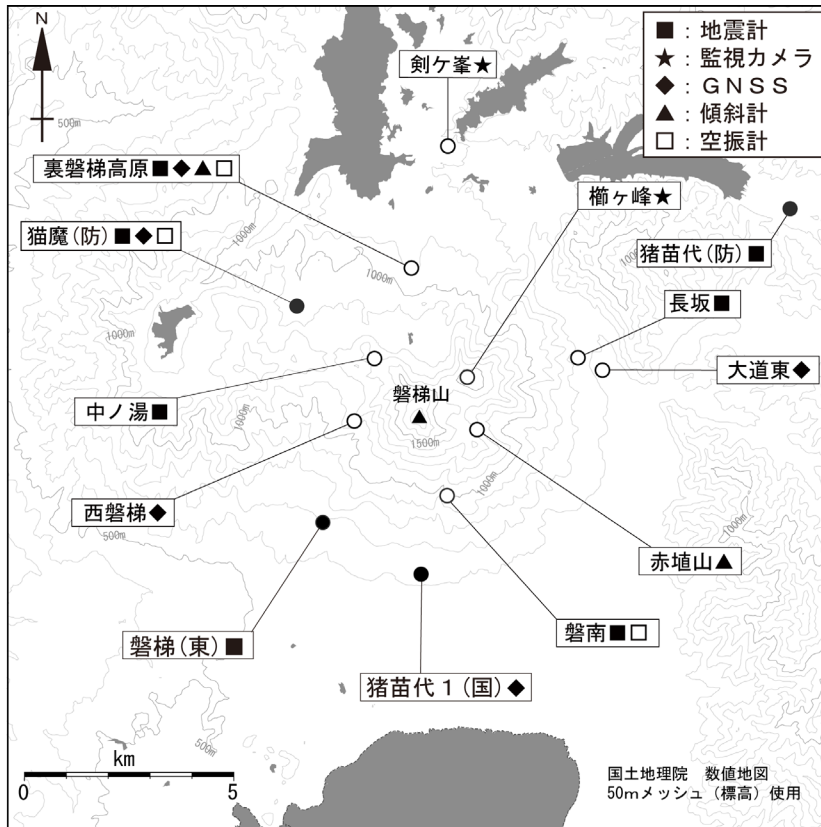


図 11 磐梯山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

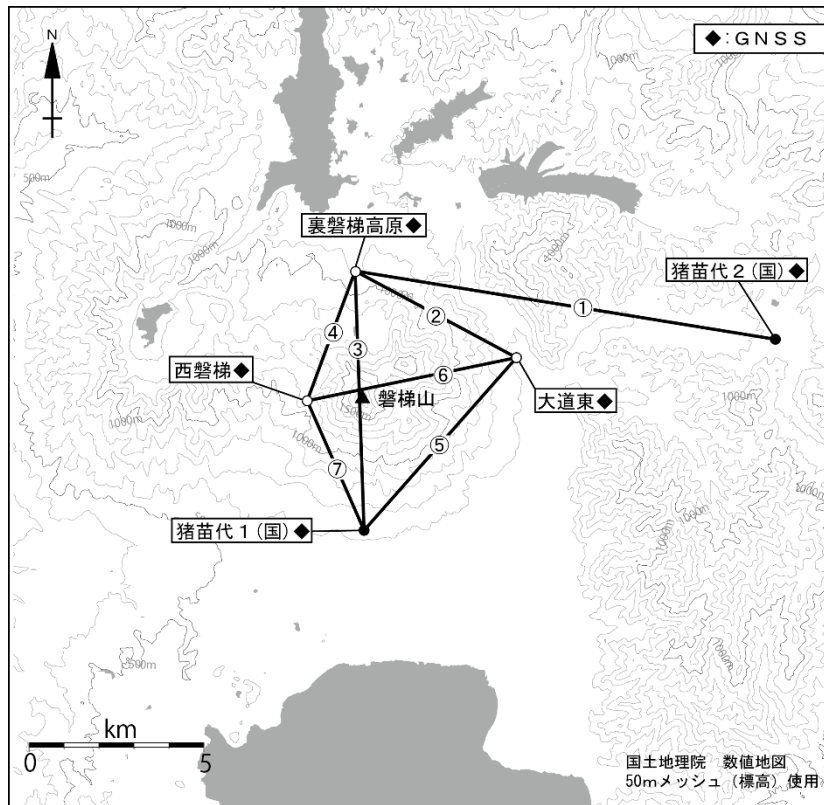


図 12 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院